

TOPICS & SPORTS



1_ 恒例の雪上餅つき大会
2_ そりで勢いよく斜面を滑る子どもたち
3_ 上空を見上げながらパラグライダーを追う来場者

「第37回白鷹スキー場祭り」開催 白銀のゲレンデで全力雪遊び

雪山をまるごと楽しむ「白鷹スキー場祭り」が2月24日、町営スキー場で開催されました。

快晴に恵まれた当日は、町内外から多くの家族連れなどが来場。豪華賞品が当たる「お楽しみ抽選会」には長蛇の列ができ、そり滑りを競う「滑ってゲット」では、勢いよく滑り出した子どもたちが回ったり転んだりしながら我先にとゴールを目指しました。また、パラグライダーが上空からお菓子を投下する「空からの贈り物」では、子どもたちがゲレンデを縦横無尽に走り回り、餅つき大会では来場者がつきたての餅に舌鼓。開会式で鈴木盛雄実行委員長が「中山地区をあげて準備してきた。ぜひ楽しんで帰ってほしい」とあいさつした言葉にこたえるように、会場に笑い声や楽しそうな会話が響き渡りました。

見て・触れて・知って、白鷹の魅力 お試し移住体験ツアー「極寒」を開催

白鷹町の冬の生活を知る「お試し移住体験ツアー」が2月2～3日の日程で行われ、首都圏などから10人が参加しました。

初日はまず、受け入れ役で先輩移住者である田勢秀康さんが開いたゲストハウス「353 黒鴨」で昼食。ひきずりうどんや、山菜を使った郷土料理などを味わいました。その後、紺野農園（紺野伊久雄社長）のハウス内でホウレンソウの収穫を体験し、夜にはどりの農園直売所で調達した食材で芋煮を調理しながら、白鷹町の話などで交流。翌日はそば打ちも体験し、2日間を通して町と人の魅力を感じていきました。



1_ のどか村の皆さんに教わりながら、真剣な表情でそば打ちを体験する子どもたち
2_ ホウレンソウを収穫し、笑顔の参加者



1_ 紅花の色素によって鮮やかな黄色に染まったかぶ漬け
2_ 「トゲが痛くて摘むのが大変だった」と紅花摘みの苦労を思い出しながら給食を味わう児童

自分たちで摘んだ花を味わう 町内小中学校で紅花入り給食

町内の小中学生が昨年に摘んだ紅花が、2月21日の学校給食で提供されました。紅花は、紅花生産者の安部武さん（十王）から「自分たちで摘んだものをぜひ食べてもらいたい」というご厚意によりいただいたものです。当日は、乱花を使った紅花入りかぶ漬けとして提供されました。子どもたちは「若菜は食べたことあるけど、花を食べるのは初めて」「色が鮮やかで、ほかの料理にも使えそう」などと話し、紅花を摘んだときのことを思い出しながら味わいました。

元気な1年生になってね！ よつばこども園園児にミニランドセル

2月5日、町内で活動しているクラフトクラブ「あみあみこみゅ」（代表：高橋陽子さん）からよつばこども園の年長児に、クラフト紙で制作したミニランドセルが贈られました。

現在、十王地区コミュニティセンターにおいて5人のメンバーで活動している同団体。活動の中で、地域の子どものためにも何かしてあげたいという思いからミニランドセル贈呈を提案し、3年前から行なってきました。「皆さんのお守りになるように思いを込めて作った」という高橋さん。園児たちは「元気な1年生になります」とこたえ、元気いっぱい歌で感謝の気持ちを表しました。



「ありがとうございます」と、高橋さんからミニランドセルを受け取る園児

— 町への寄附に感謝 —

2月19日、東北電力株式会社社長井電力センター（寒河江良一所長）と株式会社ユアテック米沢営業所（太宰浩一所長）によるLED灯贈呈式が町長室で行われました。

これは「明るく住みよいまちづくりに役立ててほしい」と昭和39年から行われているもので、今回は7灯のLED灯を寄贈いただきました。このたび寄贈いただいたLED灯は、交通安全と事故防止のために、荒砥及び広野地区の各所に設置させていただきます。



東北電力株式会社社長井電力センター 様
株式会社ユアテック米沢営業所 様

「炭焼き体験会」開催 炭の温かさに心と体ほっこり

町と山形県木炭文化協議会（小関勝助会長）の共催による「炭焼き体験会」が2月23日、白鷹ふるさと森林公園の炭焼き窯で行われました。

炭焼きについて学んでもらうことを目的に毎年開催している当体験会。この日は町民など約10人が参加し、ドラム缶窯を使った飾り炭作りや、1,000℃近くまで熱せられた白炭窯からの炭出しに挑戦しました。また、昼食では参加者が窯から出した炭を使って食材を炭火焼きし、冬の寒さの中に温かさを感じながら談笑しました。



↑顔を赤くしながら一生懸命炭出しをする子どもたち／参加者が作った飾り炭→